

「ものづくり大田」で55年 「百年企業」をめざし、 技術と人を磨き上げる職人魂

三櫻製作所

住宅地の中に古くからの町工場が混在し、日本のものづくりを根幹から支えてきた東京都大田区で、三櫻製作所(大田区西六郷、大友冠代表、03・5714・4866)は金属加工工業を営んでいる。昭和33年8月、勤め先の社長から機械を譲り受け、同僚3名で独立したことに因んだ屋号。他の2名がそれぞれ独立した後も、大友代表は55年にわたり「三櫻製作所」の看板を守り通してきた。

同製作所は自動車メーカーなどに使われるマザーマシンの部品をはじめ、加工機械や精密機械などの部品を受注生産している。その精度は1,000分の1mm以下、耐久性は数万台分とも言われ、日本のみならず世界の製造業を牽引する高い技術力を持つ。「ものづくり大田」でも知る人ぞ知る存在である。

昨今の不況で、設備投資を控える企業の中にあって、同製作所の世界的技術を支えるのは最高5次元の高度なNC工作機械の制御技術だ。「時代の変化に対応し、常に付加価値の高い製品を顧客に提供していくには、最先端の設備投資が不可欠」と大友代表は語る。その反面、「ものづくりは人がするもの。いくら高度な機械でも、扱う人間の手仕事によって最後は決まる」とも言う。「広く世のためになるものづくりをめざすからこそ、自分は法人ではなく個人事業としての営業にこだわりたい」と代表は強調する。



同製作所の高い技術力が光る製品



大友代表から長男明氏(左)、新人へと技術は受け継がれる

現在80歳の大友代表が次にめざしているのは「百年企業」だ。長男の明氏は同製作所の後継者として長年父から指導を受け、そして父を支えてきた。大友代表は地元の工業高校の生徒にも、自らの技術を継承しようとインターシップへの協力を惜しまない。その職人魂は確実に受け継がれようとしている。